

研究課題：市町村レベルで取り組む歯周病対策事業の成果に関する調査研究（1）

—地域歯科診断（住民アンケート調査）と事業企画—

研究者名：飯嶋理¹⁾、田村俊彦¹⁾、中村宗達²⁾、安藤雄一³⁾

所 属：¹⁾ 静岡県歯科医師会、²⁾ 静岡県東部健康福祉センター、³⁾ 国立保健医療科学院

【緒言】 8020 を達成する為には、う蝕対策と歯周病対策が不可欠である。前者については、フッ化物の公衆衛生的利用を核とした予防対策により地域レベルで優れた成果が認められているが、後者については未だ実績の乏しい現状にある。歯周病対策の成果が地域レベルで認められていない理由は、その予防方法や治療・メインテナンスの方法が確立されていないということではない。歯周病には公衆衛生的な対策のないことが第一の原因と考えられる。すなわち、個人衛生で地域レベルの問題を解決しようとしているため、当然簡単には問題が解決しないということである。個人衛生で地域レベルの問題を解決しようとすると、必ず限界や難点が生ずる。限界とは、「できる人」はでき、「できない人」はできない、ということ。また、難点とは、一つの解決策で快刀乱麻に問題を解決できないということ。現状においては、これら限界・難点が、歯周病対策の進展を阻んでいるものと推測する。そして、この克服方法として、昨今、住民参加型事業の展開が有力視されるようになってきている。

本調査研究において、8020 を達成する為に必要となる歯周病対策の有力候補である住民参加型事業を展開することにより、個人衛生対策の問題点を克服するヒント並びに具体的な実践例を得、地域レベルでの歯周病対策推進の糸口を掴めるものと考えた。

【目的】 住民参加型の歯周病対策事業を実施することにより、上記2点をいかにクリアーできるかを、現場での実践を通じて検討し、一定の解答を得る。

【方法】 <全体計画と年次：3年計画>

- ・地域：静岡県H市Y地域(テスト群：人口約1万4千人)、S町(コントロール群：人口約1万人)

1年目 (18年度)	2年目 (19年度)	3年目 (20年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病地域診断 (住民アンケート調査) ・歯周病対策住民組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加型事業等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続実施 ・事業評価 (住民アンケート調査) ・地域間比較による評価

本年度（1年目）は、テスト群、コントロール群ともにベースライン調査を行なうとともに、テスト群については歯周病対策住民組織づくりを行なうこととした。ベースライン調査としては、両地域において行政が行なう総合健康診査時に自記式アンケート18問を実施した。

【結果】 アンケート調査結果は、テスト群が総受診者数2,136人、回答者数787人、回答率36.8%、またコントロール群が総受診者数1,858人、回答者数779人、回答率41.9%であった。

テスト地域では、すでに事業が始まっていたためか（或いは本来の地域差のためかは不明）一部のアンケート項目の回答でテスト・コントロール地域間に差が認められた。しかしながら、ほとんどの項目についてはほぼ同様の傾向にあった。

また、テスト地域においては、行政、歯科医師会等により1～2か月に1回の会合を持ちつづけ、歯周病対策住民組織づくりを目指して検討を行なったが、組織を立ち上げるまでには至らなかった。

【まとめ】 3年継続事業の1年目として、住民参加型歯周病対策事業の成果を評価するためのテスト地域、コントロール地域を選定し、各々の歯科知識・行動等に関するベースラインデータを収集するとともに、テスト群への介入の準備を行なった。